

ご報告：第1回伊勢志摩/難病シンポジウム (ISS)

第1回 伊勢志摩 難病シンポジウムが三重県伊勢市にて、2023年11月3日(金)に開催されました。

メインテーマ「慢性期と急性期の難治性疾患への取り組み—基礎と多領域診療」のもと、慢性期の難治性疾患として掌蹠膿疱症(PPP)、掌蹠膿疱症性骨関節炎(PAO)が、急性期の難治性疾患として新型コロナウイルス感染症とコロナ後遺症が、第1部と第2部のプログラムでそれぞれ取り上げられました。

全国から合計103名の医師、医療従事者、研究者、コメディカルおよび医療関係者が伊勢市に集まり、北海道の旭川市や四国の愛媛、東京都八丈島からの参加者も熱心に加わって頂き、ユニークで有意義なシンポジウムになりました。難病に真っ向から立ち向かう姿勢を示した素晴らしいシンポジウムだったとの参加者の声が寄せられました。

開催概要

第1回伊勢志摩 難病シンポジウム (ISS)

～慢性期と急性期の難治性疾患への取り組み—基礎と多領域診療～

会期: 2023年11月3日(金・祝日) 9:00～17:00

会場: シンフォニアテクノロジー響ホール伊勢(伊勢市観光文化会館)

主催 一般財団法人 難病治療開発機構

後援 公益財団法人 日本リウマチ財団、
一般社団法人 日本リウマチ学会、
公益社団法人 日本整形外科学会、
一般社団法人 日本骨粗鬆症学会、
日本骨免疫学会、
日本脊椎関節炎学会、
掌蹠膿疱症患者会 PPP コミュニティ

共催 ヤンセンファーマ株式会社

アツヴィ合同会社

中外製薬株式会社

寄付 三井不動産株式会社

アステラス製薬株式会社

株式会社新日本科学
協賛 モデルナ・ジャパン株式会社
エーザイ株式会社
株式会社新日本科学

プログラム

第1部では、「掌蹠膿疱症(PPP)掌蹠膿疱症性骨関節炎(PAO)の啓発普及と征圧めざして」のテーマで、5人の先生方が各講演を行いました。

演題1: 掌蹠膿疱症性骨関節炎(PAO)の疫学—全国疫学調査—
松原 優里 (自治医科大学 地域医療学センター公衆衛生学部門 講師)

演題2: 掌蹠膿疱症(PPP)におけるゲセルクマブの適正使用について
村上 正基 (愛媛大学大学院医学系研究科皮膚科 特任教授)

演題3: 耳鼻咽喉科領域からみた掌蹠膿疱症(PPP)
熊井 琢美 (旭川医科大学 耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座 講師)

演題4: 掌蹠膿疱症(PPP)における歯性病巣治療
解決すべき根本的な問題と歯科治療の3つのステップ
菊池 重成 (きくち歯科医院 院長/東京医科歯科大学歯周病学分野非常勤講師)

演題5: 掌蹠膿疱症性骨関節炎(PAO)の診断について
辻 成佳 (日本生命病院リハビリテーション科・整形外科・乾癬センター部長)

第2部では、メインテーマ:「コロナ後遺症(Long COVID)の病態解明と治療法開発に向けて」のもと、特別講演:「Long COVIDと慢性疲労症候群(ME/CFS)の免疫病態について」の特別講演が山村 隆 先生(国立精神・神経医療研究センター神経研究所 特任研究部長 多発性硬化症センター長)からなされました。

また、第2部のセッションテーマ「新型コロナウイルス感染症からみえてきたことへの対応」で、5人の先生方が夫々の研究成果の講演を行いました。

演題1: 新型コロナウイルス・mRNA ワクチンに関する基礎医学
石井 健 (東京大学医科学研究所・感染免疫部門・ワクチン科学分野 教授ワクチンセンター長)

演題2:新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染症ならびに

その mRNA ワクチンに関する臨床神経学

黒岩 義之(帝京大学医学部脳神経内科客員教授、帝京大学附属溝口病院脳卒中センター長)

演題3:新型コロナウイルス(SARS-CoV-2) 感染症におけるサイトカインストーム

～関節リウマチの病態との類似性から考える～

高柳 広 (東京大学大学院医学系研究科 免疫学教授)

演題4:新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の臨床像について

-Long COVID も含めて-

大西 孝宏(伊勢赤十字病院 腎臓内科/リウマチ膠原病科部長)

演題5:コロナ後遺症(Long COVID)とミトコンドリア機能障害

横田 俊平 (横浜市立大名誉教授、東京福祉大学教授、湘南よこた医院 院長)

モーニング・セッション②では、市民公開講座の形式による一(医師と患者の座談会)が開かれ、患者会の代表3名が登壇して座談会に参加されました。

ランチョン共催セミナーでは、～掌蹠膿疱症(PPP)、基礎と臨床の今～をテーマに、次の2名の先生がそれぞれの演題を講演されました。

演題 1:「整形外科の立場からみた掌蹠膿疱症診療の実際」

石原 陽子(一般財団法人難病治療開発機構 研究主任)

演題 2: 掌蹠膿疱症の病態を考える～口腔マイクロバイオーーム研究を中心に～」

河野 通良(東京歯科大学市川総合病院 皮膚科 准教授)

終了後の今後の期待ご報告

シンポジウム当日は、地元の医師会の先生はじめ、関東/関西/中部地方の医師、看護師、薬剤師、理学療法士の他に患者様や一般参加者がお越しになりました。

第1回難病シンポジウムの伊勢志摩での経験と成果を踏まえて、次回のシンポジウムが今後も、各地で開催される期待の声が伊勢市での懇親会や理事会で聞かれました。

(以上)

報告作成者 森田市三郎

一般財団法人難病治療開発機構 顧問